交野が原万葉学級　２０２３年高岡万葉まつり参加万葉集一覧（２２首）

第６巻　９９３番（３４２）　同じ　坂上　郎女の歌一首

月立ちて　ただ三日月の　眉根掻き　日長く恋ひし　君に逢へるかも

第６巻　９９４番（３４２）　大伴　宿禰家持の初月の歌一首

振り放けて　三日月見れば　一目見し　人の眉引き　思ほゆるかも

第６巻　９９５番（３４２）　大伴　坂上　郎女の、親族を宴する歌一首

かくしつつ　遊び飲みこそ　草木すら　春は生ひつつ　秋は散り行く

第６巻　９９６番（３４２）　六年　甲戌、　海犬養宿禰岡麻呂　、　詔　に応ふる歌

御民我　生けるしるしあり　天地の　栄ゆる時に　あへらく思へば

春三月、難波宮に幸す時の歌六首

第６巻　９９７番（３４３）

住吉の　粉浜のしじみ　開けも見ず　隠りてのみや　恋ひ渡りなむ

第６巻　９９８番（３４３）

眉のごと　雲居に見ゆる　阿波の山　かけて漕ぐ舟　泊まり知らずも

第６巻　９９９番（３４３）

千沼廻より　雨そ降り来る　四極の海人　網綱乾せり　濡れもあへむかも

9－997
南海粉浜駅
犬養万葉歌碑

（　　）内数字は、高岡万葉まつりコマ番号

第6巻　1000番（344）

児らしあらば　二人聞かむを　沖つ渚に　鳴くなる鶴の　暁　の声

第6巻　1001番（344）

ますらをは　み狩に立たし　娘子らは　赤裳裾引く　清き浜辺を

第6巻　1002番（344）

馬の歩み　押へ留めよ　住吉の　岸の黄土に　にほひて行かむ

↑機物神社七夕祭り

←星田妙見宮
七夕まつり

山上臣　憶良　七夕の歌　十二首

第8巻　1518番（499）

天の川　相向き立ちて　我が恋ひし　君来ますなり　紐解き設けな

第8巻　1519番（499）

ひさかたの　天の川瀬に　舟浮けて　今夜か君が　我がり来まさむ

第8巻　1520番（500）

彦星(ひこほし)は織女(たなばたつめ)と天地(あめつち)の別(わか)れし時(とき)ゆ
いなむしろ川(かは)に向(む)き立(た)ち思(おも)ふそら
安(やす)けなくに嘆(なげ)くそら安(やす)けなくに

青波(あをなみ)に望(のぞ)みは絶(た)えぬ白雲(しらくも)に涙(なみた)は尽(つ)きぬ
かくのみや息(いき)づき居(を)らむかくのみや恋(こ)ひつつあらむ
さ丹塗(にぬ)りの小舟(をぶね)もがも玉巻(たまま)きのま櫂(かい)もがも
朝(あさ)なぎにいかき渡(わた)り夕潮(ゆふしお)に い漕(こ)ぎ渡(わた)り
ひさかたの天(あま)の川原(かはら)に天飛(あまと)ぶや領巾(ひれかたし)片敷き
ま玉(たま)手の玉(たま)手さし交(か)へあまた夜(よ)も寝(い)ねてしかも秋(あき)にあらずとも

反歌(はんか)

第8巻　1521番（500）

風雲(かぜくも)は一(ふた)つの岸(きし)に通(かよ)へども我(わ)が遠妻(とほづま)の言(こと)そ通(かよ)はぬ

第8巻　1522番（500）

たぶてにも投(な)げ越(こ)しつべき天(あま)の川(がは)隔(へだ)てればかもあまたすべなき

第8巻　1523番（501）

秋風の吹きにし日より　いつしかと　我が待ち恋ひし　君そ来ませる

第8巻　1524番（501）

天の川　いと川波は　立たねども　さもらひかたし　近きこの瀬を

第8巻　1525番（501）

袖振らば　見もかはしつべく　近けども　渡るすべなし　秋にしあらねば

第8巻　1526番（501）

玉かぎる　ほのかに見えて　別れなば　もとなや恋ひむ　逢ふ時までは

第8巻　1527番（502）

彦星し　妻迎へ舟　漕ぎ出らし　天の川原に　霧の立てるは

第八巻　1528番（502）

霞立つ　天の川原に　君待つと　い行き返るに　裳の裾濡れぬ

第八巻　1529番（502）

天の川　浮津の波音　騒くなり　我が待つ君し　舟出すらしも

8 - 1527

枚方観音山　牽牛万葉歌碑